

2016年 雷電通い 高橋岳・記

昨シーズンからアイスクライミングに通い始めた。学生の時は今のようなカッコいいアックスや冬靴も持っておらず、寒すぎるし怖いしでアイスは嫌いだった。しかし高い山を登るにはブルーアイスなる氷があり、氷の技術が必須なようだ。エベレスト登頂の際活躍したヒラリーらニュージーランド人もアイスクライミングの技術に長けていて重用されたい。そんな訳で半ば嫌々始めたアイスであるが少しずつ慣れて面白くなってきた。何より自然そのままの造形美を辿るのは純粹で良い。滝登りに人生を賭す鱒のようである。まだまだヘタクソで修行中の私ですが最近の雷電通いを記します。

ここで白状したいと思いますが、僕が雷電に行く目的の一つは倶知安のWさん家のごはんが食べたいからであります。昨年の1月に雷電で口を怪我して入院した際にW家のお母さんが持たせてくれた倶知安のポテトと唐揚げは縫合跡にも沁みて涙が出る程美味かったのです。その味が忘れられないのです。

1/23 雷電 4ルンゼ

ニセコ在住アオニーさんと登る。1、2p目ともリードさせてもらった。2p目は傘の用に発達しており、面白い形だった。Wさん家に泊まる。猛犬に吠えられる。

1/24 雷電 ナイル川

栗山さん・中川さんと合流。当初高橋の思惑では3ルンゼを登ってからナイルにトライする予定であった。しかし前日の偵察でナイルの発達が良い旨伝えると「ナイルに行こう！」とシーズン初っぱなからナイルに行くことになってしまった。昨日の4ルンゼでもビビったので実は内心ドキドキである。

1p目、高橋ジャンケンに勝ち果敢に行くも、10mも行かない所で恐れをなして降りる。2番手栗山さんに交代。実はその先は流水がアックスを伝い袖口から入る程水が流れており、びしょびしょのシャワークライムとなる。



↑私の代わりにこの辺りからびしょびしょになった栗山氏

2p目 高橋「右岸にビレイ点がある」との言葉に盲目となった高橋は右岸の流水ポイント基部へザイルをのばしてしまい、背中に水飛沫を浴びながらのビレイ。フォローの栗山さん「なんでこんなに濡れなきゃならんのだ！」と怒る。中川さんも「岳ちゃん、ルーファイ悪すぎるわ・・・」

3p目 中川氏 垂直部が長く続く。落ち口まで。

下りは懸垂2ピッチ。濡れビレイポイントをつかった高橋は靴から下着までビショビショになり、薄着過ぎたのもあり震えが止まらない。下降中、オオワシが突然現れ目の前を飛んでいった。美しかった。(終)

この1週間後、雷電合宿をしました。1日目は小野睦さん、吉成さん福家さんと2ルンゼ。最後に下部氷柱状に TR を張り皆で登り込み。「暗くて氷が見えない～」とつぶやく福家さんも頑張りました。夜は黒松内の辻野さん家で鍋。ムツオさんのなぜなぜバトルが勃発。2日目は辻野さん・渡部 Y さんも一緒に1、3、4ルンゼなどで登り込みました。遅くまで付き合っ下さりありがとうございました。また行きましょう。